

私は国際教養コースに所属していました。国際教養コースには留学という大きなコンテンツ以外にも国際教養コースでしか学ぶことのできない、様々な科目があります。「PE (Practical English)」は、ネイティブの先生方とともに行う授業です。英語の物語文や時事ネタの新聞記事を読み、話題について英語で話し合いをしました。「哲学」は、週1回、身近な問題についてともに考え、話し合う授業です。特に、SNSを題材にし、幸福について論じた回はSNSをよく使う世代ということもあり、多くの意見が散見されたため、お気に入りでした。「日本文化」(高1時)では、隣りにある祇園寺に行き、座禅体験を行いました。日本人でも知らない日本文化があることに驚きでした。「グローバル社会論」(高1時)では、世界を取り巻く様々な危機について英語の動画を視聴し、レポートに自分の考えをまとめました。「アカデミック・スキルズ」では、藤田先生からアメリカと日本の文化の違いや考え方の違いなどを学びました。さらに、1つのトピックについて生徒と話し合うことで、違いを知り、相互に理解を深めることができました。特に高3時に教わったエントリーシートなどで使う丁寧に書く英語は、生涯を通して有益なものだと考えています。「探究活動」は、国際教養コースに所属する高2生と高3生の合同で行うものです。私は高齢者と若い人のコミュニケーションの架け橋となるべく、梅染や畳作りのイベントを開催しました。さらに、マチノイズミと協力し、黄門まつりに出店したり、こども食堂のお手伝いをさせてもらいました。学校の都合により、NOを突きつけられることも多くありましたが、その都度計画を練り直し、活動を行うことができたことを確信しています。また、この経験は自身の進路希望にも大きな影響を及ぼしたとともに、推薦入試にもたいへん役に立ったと考えています。「留学」は、国際教養コースの一番の要です。高校生のうちに留学に行くことができ、本当に良かったと考えています。留学を通して、様々な背景を持つ人と交流し、日本とは異なる文化圏で学んだことで、自らの思考や行動に少なからず良い影響をもたらしてくれました。さらに、日本を俯瞰的に見たことで、日本と世界の違いを知ることができました。私は高校生活を国際教養コースで過ごすことができ、良かったと考えています。多感な時期に留学に行き様々なことを吸収できただけでなく、探究活動を通して、社会・企業の一員として職務を全うすることの大切さを知ることができました。また、UCデービスの藤田先生に授業を行っていただいたことで、茨城だけでは学ぶことのできない、海外的な思考を学ぶことができました。これらの理由から、国際教養コースで学ぶということは、単に留学ができるからという理由だけではなく、留学以外にも一般の生徒では学び、体験することのできない貴重な経験ができる点が大変大きなアドバンテージになっていると思います。

6年間の思い出について、中学では水泳部に所属していました。同学年の人たちと親交を深めるとともに、水泳という競技に対し真摯に向き合いました。また、先輩後輩関係なく、切磋琢磨する仲間を作ることができました。さらに、勉強と部活動の両立という難題にも直面しながら、上手に勉強のルーティーンを作り、定期テストと部活動の両立を目指せました。中学生生活一番の思い出は体育祭です。中1のとき、中3の先輩方が後輩を率いている姿を近くで目撃し、大変刺激を受けました。そのため、自らが中3の際には当時の先輩のように振る舞おうと心がけましたが、あまりにも目標とする先輩との実力の差を実感し、反省を繰り返す毎日を送りました。しかし、中1と中2に目標の共有を行い、「優勝」という目標に向かって全員で邁進することができました。高校ではJRC部に所属しました。海岸でのゴミ拾いや、水戸でのまちなかフェスティバルへの参加などのボランティアを行いました。また、研修として参加した、浪江町請戸小学校への訪問が、JRC部での活動の中で最も記憶に残っています。被災時3歳であった私には想像もつかない凄惨な光景が当時の写真や建物とともに残

されていまして。JRC 部の一員としてだけではなく、一人の日本人として参加して良かったと深く考えさせられた出来事でした。さらに、高2時には生徒会に所属しました。そして、生徒会書記として役目を全うしました。在任中に最も頑張ったことは、クラスマッチの運営です。生徒会には、当日のクラスマッチの運営だけではなく、スケジュールの作成、競技の決定、協力を仰ぐ部活動への打診など、多くの仕事が残されていました。そのため、クラスマッチ1週間前には、生徒会メンバー全員が遅くまで居残りし、クラスマッチの円滑な運営方法や、それぞれのルールの確定作業などを進めました。高校3年間で一番思い出に残っている行事は「文化祭」です。クラス委員長として、クラスを1つにまとめることに注力しました。クラスメイトにはそれぞれの思惑があり、何もかもがうまくいくというわけではなかったですが、最高の文化祭をクラスメイトとともに過ごすことができました。

茨中・茨高の良いところは、課外授業が多く開講されてるなど、先生に気軽に質問することができる体制づくりがなされているところです。課外授業を活用することで、より深く理解できました。また、先生にすぐに質問できる体制が整っていたことで、教室での自習中にわからないところの質問に行くことができました。さらに、先生方は進路や勉強について困っていることについても相談に乗ってくださり、自分の支えとなってくださいました。推薦入試を受ける際には、志望理由書の添削や面接対策など、幅広く対策を行ってくださいました。そのため、塾や通信講座などを利用する必要なく受験に臨むことができました。また、朝早くから夜遅くまで自習室が開いているため、すぐに勉強を行う体制に入ることができまし。さらに、進路指導室など、進路に困った際に気軽に相談できる先生たちに囲まれていることも大変大きな茨中・茨高の良いところだと考えます。

大学では経営学科に進学し、経営やマーケティングについて深く学ぶとともに、心理学や法学など経営に部分的に関係する科目についても学んでいきたいです。また、留学や学生との交流を通して、さらに自分の考えを深めていきたいです。そして、様々な世界の文化についても学びを深めていきたいです。そのためにも、英語だけでなく第2外国語の勉強も欠かさずに行っていきたいです。こうして将来は日本だけでなく、世界で活躍していきたいです。